

人物研究

南国・宮崎に最強軍団結成をもくろむ

南九州大・西村盛正監督



91年秋季の西日本学生リーグ戦は、試合がスケジュール通りに進まず、関係者の頭を悩ませた。各試合の開始時間は、1時間さきみに予定されている。選手交代やインジャー・タイム（けがの治療の時間）、判定をめぐる審判の協議時間をいれると、1階級は5分間の試合時間にプラス・アルファして8分間をとるのがふつう。これだと9階級で72分を要することになり、60分ではもともと足りないことになる。しかし全試合とも判定で決着がつくことはないの、60分さきみの試合スケジュールで予定通りにできたというのが、これまでのパターンだった。

ところが今回は、試合が伸び伸びになり、初日の最終戦が開始されたのは予定時刻を40分以上もオーバーしていた時だった。その原因ははっきりしていた。二部リーグから上がってきた南九州大が、予想以上に踏ん張っていたからだ。これまでのリーグ戦は、最下位のチームの戦力が他5大学に比べてかなり劣っていた。ある試合に70分を要しても、最下位チームがらみの試合ではオールで決まる試合が相次ぎ、ここで自然に「時間調整」できた。今回は、南九州大の踏ん張りにより、そうした「時間合わせ」がでさずにスケジュール

ルに大きな支障をきたしたのである。それほどまでに南九州大は戦力が整いつつある。結果は全敗で一部リーグ最下位だったが、1、2年生で固めたチームで、これだけ健闘したことは、西日本学生界の勢力図が大きく塗り変わる前兆といっている。

この新興チームを率いるのが西村盛正監督だ。鹿児島県の奄美大島で生まれ、小学1年生の時に宮崎へ。物どころがついてからの大半を宮崎ですごしているけどになるが「親から、本土（九州）の間には絶対に負けるな、と教えられたこともあり、負けず嫌いの少年でした。でも、島育ちの人間はだれもがこの気持ちは持っていると思いますよ。鹿児島商工高のレスリング部員でも、島育ちの選手が結構やっていますよ。」と、郷土への愛着と誇りは今でもしっかりと持っている。

南国にレスリングのワンダーランド

宮崎日大高から日大へ進学。昭和46年に日大を卒業し、モントリオール五輪（グレコ38kg級）を目指すがたわら日大のコーチとして母校の強化にあたった。昭和52、53年にリーグ優勝を遂げ、日大の第二次黄金時代を影から支えた名伯楽である。また選手としては全日本社会人選手権で4度の優勝（グレコ3度、フリー1度）を含めて、15個のメダルを獲得した実績を持っている。

五輪の夢敗れ、昭和53年に国体要因として宮崎へ戻り、南九州大にレスリング部を作った。当初は選手獲得もままならず、二部リーグの域を出ることができなかったが、2年前に推薦制度が充実し、全国から数多くの選手を集められるようになってから状況は一変する。現在の1、2年生の出身県は九州・沖縄にとどまらず、広島、兵庫、栃木、山梨、長野、神奈川、果ては北海道まで。ことしも新潟、南の国にレスリングのワンダーランドができたようだ。

日大のコーチの時「時代が今と違うこともあったが、ガンガンしごいたね」という。「自分がやられたことを伝えたのであり、そのくらいの練習はあたりまえのこととして受け止めていた」と言うが、そのおかげで、選手が合宿所を集団脱走したことがあり、この時は監督からコーチのあり方を厳しく説教されたという。現在の南九州大選手への指導は「昔とそう変わりはないうつもり」と言うが、脱走

者はない。「厳しくする一方で、いい思いもさせている。アメとムチの使い分けが昔よりうまくなったのかな」と笑う。

指導した最高の選手は富山英明

30人の部員は合宿所か近くのアパートに住んでおり、練習は朝が約1時間半で、午後は約3時間。西村監督は午後練習には毎日顔を出すのはもちろんだが、週3回合宿所に泊り込み、朝練習にも出て目を光らせている。

午後練習は、選手とスパarringsに汗を流し、その数は1日に多い時で7、8本。まだ選手と互角にやれるが、「もう43歳になる。やっぱりきついよ」と、そろそろマツトを降りたい気持ちもチラホラ。現在の部員の中の1人を助手として大学に残し、早く現場を任せたいようだ。他からコーチを呼ぶ計画は？「それはありません。監督とコーチはツィ・カーでなければなりません。自分が指導し、気心の知れた人間でなければ、チームを任せる気持ちにはなりません」と言う。

日大コーチ時代の最高傑作は、やはり富山英明（現日大コーチ）だ。富山が世界チャンピオンになる前、1、2年生の時に指導した

わけだが「とにかくよく練習していた。チームの練習が終わっても納得のいかないことがあると、後輩をつかまえたり、時に一人ででも練習を続けた。こいつは違うな」と思ったそうだ。その話を現在の部員に何度も言いつけて聞かせるが、今だに富山ほど熱心で、ひたむきに練習に打ち込む選手は現れていないそうだ。

環境は抜群！

これからが勝負

秋季リーグは全敗だったが「今回は一部リーグの感触を得るだけでいい。けが人も多く、勝てる要素は何もなかった」と、まずは「予定通り」といったところ。今季の2年生が4年生になる93年が、まず第一の勝負の時だという。

それまでの強化策として、西日本で確固たる地位を築き始めた福岡大との交流をあげる。福岡大の田中忠道総監督、吉武行寛監督とは平成元年の西日本学連米国遠征の時の団長（田中）監督（西村）コーチ（吉武）の間柄で、気心が知れている。今季、初めて定期戦を実施し、「強いチームとの交流で刺激を作りたい」と言う。91年春季は一部リーグと二部リーグでアベック優勝を実現した。今度は「一部リーグの1、2位を独占したい」と燃えている。

もちろん西日本の王者だけでは満足できない。福岡大の田中総監督と「東日本に対抗できるチームを育てよう」と誓いあっており、ことしから年には母校・日大への「殴り込み」も計画している。すでに富山コーチからの了承も得ており、学生レスリング界のトップへ立とうという意気込みがひしひしと伝わってくる。

現在までの最大のネックは、大会の際に遠征費が多かること。91年には、群馬であったインカレと山形であった全日本大学選手権そして全日本大学グレコローマン選手権（東京）のいずれもパスしている。年2回の西日本リーグ戦、西日本インカレ、同新人戦などへの出費で精一杯といったところだ。プラスもある全日本大会の地方開催も、日本の果ての大学からすれば、たいへんなことでもある。

だが92年、父母会ができ、ここからの援助が期待できることになった。難問を解決し、「全国レベルの大会に出てみたい。そのためには西日本で勝つことが先」と、ますますヤル気が湧いた様子だ。


「本当に強いチームを作るには10年かかる。やっと2年が終わった。これからは全国からいい選手を集め、優勝できるチームを作りたい」と話す西村監督。当初、本州の選手は宮崎の大学へ進学することに抵抗があったようだが、先輩の話が伝わって、抵抗はなくなり薄れているという。「年間を通じて暖かく、自然に囲まれて環境はいい。東京より物価は安いし、変な誘惑もないから、親も預けやすいはず。もっと選手を集め、強い選手に育てて大学の好意に恩返しをしたい」と張り切っている。

南九州大の最近15シーズンの成績


| 年度 | リーグ | 順位 |
|------|-------|----|
| 昭59秋 | 二部リーグ | 3位 |
| 昭60春 | 〃 | 2位 |
| 〃 秋 | 〃 | 2位 |
| 昭61春 | 〃 | 優勝 |
| 〃 秋 | 〃 | 2位 |
| 昭62春 | 〃 | 優勝 |
| 〃 秋 | 〃 | 優勝 |
| 昭63春 | 一部リーグ | 6位 |
| 〃 秋 | 二部リーグ | 優勝 |
| 平1 春 | 〃 | 2位 |
| 〃 秋 | 〃 | 6位 |
| 平2 春 | 〃 | 3位 |
| 〃 秋 | 〃 | 優勝 |
| 平3 春 | 〃 | 優勝 |
| 〃 秋 | 一部リーグ | 6位 |


頑張っています！ 電線の見えない都市造り

地中化工事前



地中化工事後





21世紀に向け躍進する総合電気工事業

三英電業株式会社

〒142
東京都品川区平塚 2-3-4
TEL 03(3788)8111

【営業所・事業所】

銀座、南部、東部、西部、埼玉、神奈川、千葉、多摩、栃木、沼津、群馬、茨城、山梨、大和、木更津、小松川、鶴見、小松川資材センター、網島資材センター、八潮重機センター、小山研修所、箱根保養所、木戸浜保養所